

【 復活トロパリ 第1調 】

きゅ せ え いしゅよ、イウデヤのひとはかを  
 救 世 主 人 墓  
 ふ うじ て 、 へいそつ なんぢの いさぎよきみを  
 封 兵 卒 爾 潔 軀  
 ま も る と き 、 なんぢは みつかめに ふくか つ  
 守 時 爾 三 日 目 復 活  
 して 、 せ かい に い の ち を た ま え り 。  
 世 界 生 命 賜  
 ゆ え にてんぐんはなんぢい の ち を ほ ど こ す の  
 故 天 軍 爾 生 命 施  
 しゅに よ べ り 、 ハリスト スよ 、 こう えい は  
 主 呼 光 榮  
 なんぢの ふくか つ に き し 、 こ おう えい は なんぢ  
 爾 復 活 歸 し 光 榮 爾  
 の く に に き す 、 ひ と り ひ と を い つ く し む  
 國 歸 獨 人 慈  
 しゅ よ 、 こう えい は なんぢの おもんぱかりに  
 主 光 榮 爾 慮  
 き す 。

【 日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

し と と ひ と し く ど う ざ な る も の 、 ち ゅ う  
使 徒 等 同 座 者 者 忠

じ つ に し て し ん ち な る ハ リ ス ト ス の え き し ゃ 、 せ い  
實 神 智 役 者 聖

な る し ん に え ら ば れ た る ふ え 、 ハ リ ス ト ス の あ い  
神 撰 笛 愛

に み ち た る う つ わ 、 わ が く に の こ う  
満 器 我 國 光

し ょ お し ゃ 、 あ し と し ゆ き ょ う せ い ニ コ ラ イ  
照 者 亜 使 徒 主 教 聖

よ 、 な ん ぢ の ぼ く ぐ ん の た あ め 、 お よ び  
爾 羊 群 爲 及

ぜん せ か い の た め に 、 い の ち を た も う せ い  
全 世 界 爲 生 命 賜 聖

さん しゃ に い の り た ま え 。  
三 者 祈 給

【 日本の亜使徒ニコライのコンダク 第4調 】

こ う え い は ち ち と こ お と せ い し ん に き  
光 榮 父 子 お と 聖 神 歸

す 、

せ い せ い し ゃ あ し と せ い ニ コ ラ イ よ 、 わ が  
成 聖 者 亜 使 徒 聖 我

くになんちをたびびとおよびいほうじんとうけ  
 國爾旅人及異邦人受  
 しに、なんちははじめわがくににおいておの  
 爾初我國於己  
 れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの  
 外來者知  
 ひかりとあたたかきをながし、なんちのて敵  
 光暖流爾敵  
 きをぞくしんのことなあし、かれらにか神  
 屬神子爲彼等神  
 みのおんちょうをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて  
 恩寵與教會建  
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり  
 今此教會爲祈  
 たまあえ、けだしわれらそのしよしはなん  
 給蓋我等其諸子爾  
 ちによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ  
 呼我善牧者慶  
 べよ。

【 復活のコンダク 第1調 】

いまもいつもよよにい、ア  
 今も何時も世世



さいだん こうえい まえ た なんぢ とうぜん ふくはいさんえい たてまつ た もの  
る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拝讚榮を奉るに堪うる者と

しゅさい なんぢみづか われらざいにん くち せいさん うた う なんぢ じんじ  
なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を

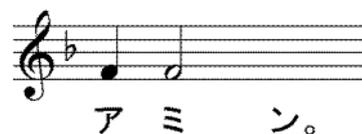
もつ われら のぞ われら およ じゆう じゆう つみ ゆる わ たましい からだ  
以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と

せい われら しょうがいぜんこう もつ なんぢ つと え たま せい  
を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる

しょうしんぢよ こせい なんぢ よろこび な しょせいじん きとう よ  
生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 )

けだしわ かみ なんぢ せい われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま いつ よよ  
司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世

に、



【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる  
聖 神 聖 勇 毅 聖

じょうせいのもものよ、われらをあわれめ  
常 生 者 我 等 憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい  
聖 神 聖 勇 毅 聖

なるじょうせいのもものよ、われらをあわれ  
常 生 者 我 等 憐

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、  
聖 神 聖 勇 毅

せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ  
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 こう え い は ち ち と こ と せ い し ん  
 光 榮 父 子 聖 神

に き す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。  
 歸 今 何 時 世 世

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ  
 聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う  
 聖 神 聖 勇

き 殺 、 せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を  
 殺 聖 常 生 者 我 等

あ わ れ め よ 。  
 憐

司祭) ( 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國  
 の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、 )

【 プロキメン 主日第1調 】

司祭) 慎みて聽くべし、衆人に平安、

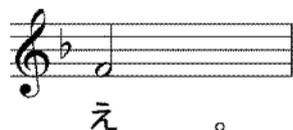
誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐を我等に垂れ給え、

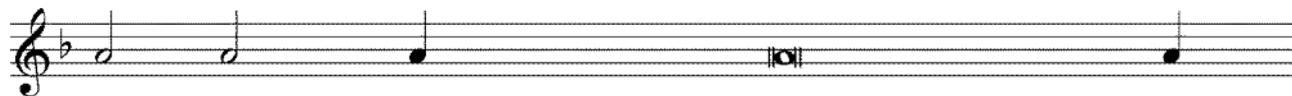
し ゅ よ 、 わ れ ら な ん ぢ を た の む が ご と く 、  
 主 我 等 爾 頼 如

な ん ぢ の あ わ れ み を わ れ ら に た あ れ え た あ ま  
 爾 憐 我 等 垂 給

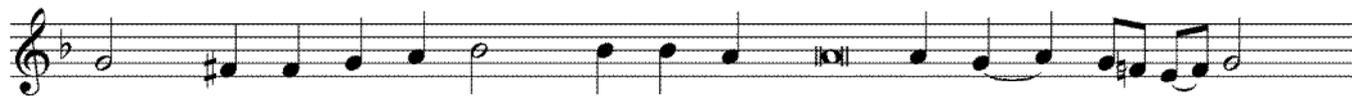


え。

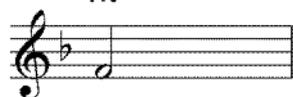
誦經) 義人よ、主の爲に喜べ、讚榮するは義者に適う、



しゅ よ、われらなんぢをたのむがごとく、  
主 我等爾 頼 如

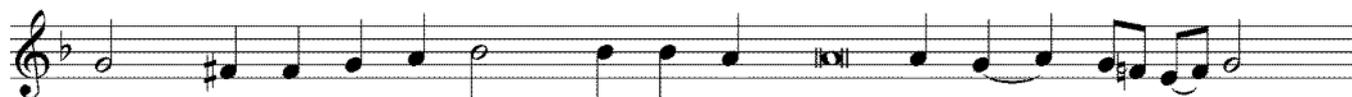


なんぢのあわれみをわれらにたあれえたあま  
爾 憐 我等 垂 給

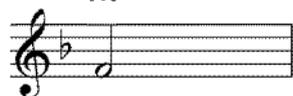


え。

誦經) 主よ、我等爾を頼むが如く、



なんぢのあわれみをわれらにたあれえたあま  
爾 憐 我等 垂 給



え。

【 アポストロス 使徒經 229 端 エフェス書 5 章 8 節～19 節 】

司祭) 睿智、

誦經) 聖使徒パウエルがエフェス人に達する書の讀、

司祭) 謹みて聽くべし、

誦經) 兄弟よ、光の子の如く行え。蓋神の實は凡の慈愛と公義と眞實とに在り。爾

等神の悦ぶ所の何なるを審にせよ、實を結ばざる暗味の行に與る勿れ、

爾之を責めよ。蓋彼等が隱に行う事は、言うも亦耻づ可し。凡そ責めらるる事は

光に由りて顯る、蓋凡そ顯るる事は光なり。故に云えるあり、寐ぬる者起きよ、死

より復活せよ、ハリストス爾を照さん。是を以て視よ、行を慎みて無智の者の如く

せ<sup>すな</sup>ず、<sup>な</sup>乃<sup>なか</sup> 智<sup>すな</sup>ある<sup>わ</sup>者<sup>か</sup>の<sup>み</sup>如<sup>む</sup>く<sup>ね</sup>せよ、<sup>な</sup>時<sup>に</sup>を<sup>に</sup>惜<sup>さ</sup>む<sup>と</sup>べし、<sup>ひ</sup>日<sup>あ</sup>は<sup>お</sup>悪<sup>し</sup>し<sup>ゆ</sup>け<sup>え</sup>ら<sup>し</sup>ば<sup>り</sup>なり。<sup>こ</sup>是<sup>ゆ</sup>の<sup>え</sup>故<sup>し</sup>に<sup>り</sup>思<sup>よ</sup>慮<sup>も</sup>なき<sup>の</sup>者

と<sup>な</sup>爲<sup>な</sup>る<sup>か</sup>勿<sup>み</sup>れ、<sup>す</sup>乃<sup>な</sup> 神<sup>すな</sup>の<sup>わ</sup>旨<sup>か</sup>の<sup>み</sup>何<sup>む</sup>なる<sup>ね</sup>を<sup>に</sup>覺<sup>さ</sup>れ。<sup>さ</sup>又<sup>と</sup> 酒<sup>ま</sup>に<sup>た</sup>酔<sup>さ</sup>う<sup>け</sup>勿<sup>よ</sup>れ、<sup>な</sup>此<sup>こ</sup>れ<sup>よ</sup>に<sup>ほ</sup>由<sup>う</sup>り<sup>とう</sup>て<sup>は</sup>放<sup>ほう</sup>蕩<sup>とう</sup>あり、

乃<sup>す</sup> 神<sup>な</sup>に<sup>わ</sup>満<sup>み</sup>て<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>よ。<sup>せい</sup>聖<sup>えい</sup> 詠<sup>えい</sup>と<sup>か</sup>歌<sup>か</sup> 頌<sup>しょう</sup>と<sup>ぞ</sup>屬<sup>く</sup> 神<sup>しん</sup>の<sup>し</sup>詩<sup>し</sup>賦<sup>ふ</sup>と<sup>も</sup>を<sup>つ</sup>以<sup>も</sup>て、<sup>く</sup>口<sup>く</sup>に<sup>ち</sup>唱<sup>とな</sup>え、<sup>こ</sup>心<sup>こ</sup>に<sup>わ</sup>和<sup>わ</sup>して、

主<sup>しゅ</sup>を<sup>さん</sup>讚<sup>び</sup>美<sup>び</sup>せよ。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳)光の子らしく歩きなさい—— 光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである—— 主に喜ばれるものがなんであるかを、わきまえ知りなさい。 実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろ、それを指摘してやりなさい。 彼らが隠れて行っていることは、口にするだけでも恥ずかしい事である。 しかし、光にさらされる時、すべてのものは、明らかになる。 明らかにされたものは皆、光となるのである。 だから、こう書いてある、「眠っている者よ、起きなさい。 死人のなかから、立ち上がりなさい。 そうすれば、キリストがあなたを照すであろう」。そこで、あなたがたの歩きかたによく注意して、賢くない者のようにはなく、賢い者のように歩き、今の時を生かして用いなさい。 今は悪い時代なのである。 だから、愚かな者にならないで、主の御旨がなんであるかを悟りなさい。 酒に酔ってはいけない。 それは乱行のもとである。 むしろ御霊に満たされて、詩とさんびと霊の歌とをもって語り合い、主にむかって心からさんびの歌をうたいなさい。

\*\*\*\*\*

【 アリルイヤ 主日第1調 】

司祭) <sup>なん</sup>爾<sup>ち</sup> に<sup>へい</sup>平<sup>あん</sup>安、

誦經) <sup>なん</sup>爾<sup>ち</sup> の<sup>しん</sup>神<sup>しん</sup>にも、

司祭) <sup>えい</sup>睿<sup>ち</sup>智、

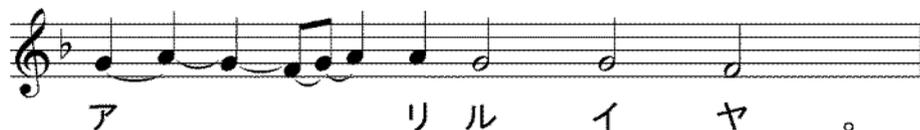
誦經) アリルイヤ、

Musical notation for the first line of the hymn: Musical notation for the first line of the hymn, featuring a treble clef, a key signature of one flat (B-flat), and a 4/4 time signature. The notes are: A4 (quarter), Bb4 (quarter), A4-G4 (beamed eighth notes), F4 (quarter), G4 (quarter), Ab4 (quarter), G4 (quarter), F4 (quarter), E4 (quarter), D4 (quarter), C4 (quarter).

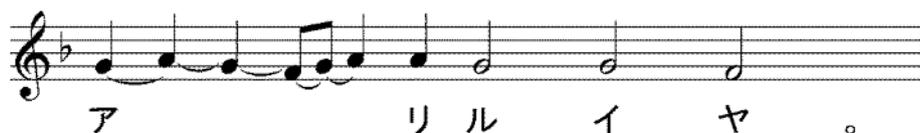
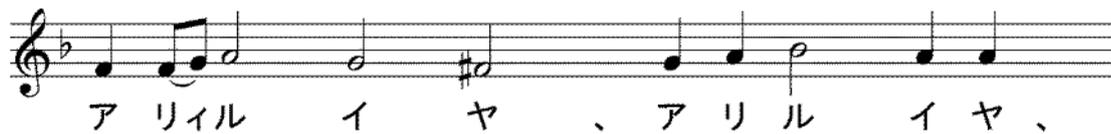
Musical notation for the second line of the hymn: Musical notation for the second line of the hymn, featuring a treble clef, a key signature of one flat (B-flat), and a 4/4 time signature. The notes are: A4 (quarter), Bb4 (quarter), A4-G4 (beamed eighth notes), F4 (quarter), G4 (quarter), Ab4 (quarter), G4 (quarter), F4 (quarter), E4 (quarter), D4 (quarter), C4 (quarter).

誦經) <sup>ね</sup>願<sup>が</sup>わ<sup>わ</sup>く<sup>た</sup>は<sup>あ</sup>我<sup>だ</sup>が<sup>か</sup>爲<sup>え</sup>に<sup>わ</sup>仇<sup>れ</sup>を<sup>し</sup>復<sup>よ</sup>し、<sup>われ</sup>我<sup>し</sup>に<sup>しょ</sup>諸<sup>みん</sup> 民<sup>し</sup>を<sup>したが</sup>従<sup>か</sup>わ<sup>さん</sup>し<sup>しょう</sup>む<sup>う</sup>る<sup>う</sup>神<sup>しん</sup>は<sup>さん</sup>讚<sup>しょう</sup> 頌<sup>しょう</sup> せ<sup>ら</sup>れ<sup>ん</sup>ん、

Musical notation for the third line of the hymn: Musical notation for the third line of the hymn, featuring a treble clef, a key signature of one flat (B-flat), and a 4/4 time signature. The notes are: A4 (quarter), Bb4 (quarter), A4-G4 (beamed eighth notes), F4 (quarter), G4 (quarter), Ab4 (quarter), G4 (quarter), F4 (quarter), E4 (quarter), D4 (quarter), C4 (quarter).



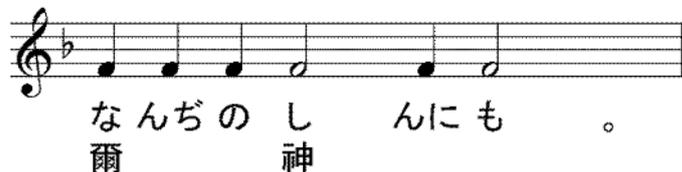
誦經) <sup>おおい すくい おう ほどこ あわれみ なんぢ あぶら もの およ そのすえ よよ</sup> 大なる救を王に施し、憐を爾の膏つけられし者ダヴィド及び其裔に世に  
<sup>た もの われなんぢ な うた</sup> 垂るる者よ、我爾の名に歌わん、



司祭) ( 黙誦: <sup>ひと あい しゅさい わ ころろ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん</sup> 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の淨き光を輝かし、我が思念  
<sup>め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ</sup> の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を  
<sup>おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ</sup> 畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所  
<sup>おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ</sup> を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、  
<sup>なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん</sup> 爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし  
<sup>いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ</sup> て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。 )

【 エヴァンゲリオン 福音經 ルカ福音書71端 13章10~17節 】

司祭) <sup>えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん</sup> 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



司祭) <sup>でん せいふくいんけい よみ</sup> ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭) 謹みて聴くべし、彼の時安息日にイスス一の會堂に在りて教を宣べたり。爰に十八

年病の鬼を患う婦あり、偃みて、少しも伸ぶ能わざりき。イスス之を見て、呼びて之に

謂えり、婦よ、爾は其病より釋かれたり。乃手を彼に按せられたれば、彼直に伸びて、

神を讚榮せり。會堂の宰、イススが安息日に醫を施しを熅りて、民に謂えり、

仕事を爲すべき日は六日あり、其中に來りて醫されよ、安息の日に於てせざれ。主彼に答え

て曰えり、偽善者よ、爾等各安息日に於て其牛或は驢を槽より解き、之を

牽きて飲わざるか、況やアヴラアムの女なる此の婦十八年サタナに縛られたる者の

結を、安息の日に於て解くべからざりしか。彼が之を言う時、彼に敵する者は皆愧ぢ、衆

民は彼が凡の光明なる行事を喜べり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 安息日に、ある會堂で教えておられると、そこに十八年間も病氣の靈につかれ、か  
がんだままで、からだを伸ばすことの全くできない女がいた。イエスはこの女を見て、呼びよせ、「女  
よ、あなたの病氣はなおった」と言つて、手をその上に置かれた。すると立ちどころに、そのからだ  
がまっすぐになり、そして神をたたえはじめた。ところが會堂司は、イエスが安息日に病氣をいやされた  
ことを憤り、群衆にむかつて言つた、「働くべき日は六日ある。その間に、なおしてもらいにきなさい。  
安息日にはいけない」。主はこれに答えて言われた、「偽善者たちよ、あなたがたはだれでも、安息日  
であっても、自分の牛やろばを家畜小屋から解いて、水を飲ませに引き出してやるではないか。それな  
ら、十八年間もサタナに縛られていた、アブラハムの娘であるこの女を、安息日であっても、その束縛  
から解いてやるべきではなかつたか」。こう言われたので、イエスに反対していた人たちはみな恥じ入  
つた。そして群衆はこぞつて、イエスがなされたすべてのすばらしいみわざを見て喜んだ。

\*\*\*\*\*

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 光 榮  
はなんぢにきす。  
爾 歸

※聖体礼儀③ (金口イオアン聖体礼儀) へ